



# 木の家だいきの会 通信

2016年4月発行

特定非営利活動法人 木の家だいきの会  
E-Mail: office@kinoie.org  
URL: http://www.kinoie.org  
facebook:  
http://www.facebook.com/NPO.KinoieDaisuki

■東京事務所 & 木の家づくりの相談空間  
〒102-0081 東京都千代田区四番町 3-10 番町 MK ビル 301  
TEL 03-6261-2970 / FAX 03-6261-2971  
■所沢事務所  
TEL 04-2937-7344

## 新たに若手の設計者が仲間に加わりました。ご紹介します！

### 木の家・設計・ことはじめ

小野育代建築設計事務所



小野育代



小野雅之

はじめまして、小野育代建築設計事務所です。

横浜市内で、住宅の設計事務所を夫婦でやっています。

初回の掲載となりますので、私たちが最初に設計した木の家「富の家」の紹介をしたいと思います。



建設当初の外観



10年後の外観

### ■15年前に手がけた「富の家」

私たちが、木の家の設計を始めたのは、15年前です。

写真の切り妻屋根の住宅「富の家」(島根県)が、はじめて手がけたものです。築150年の古民家の隣に、離れの木造2階建てを設計しました。

この家は、田畑に囲まれた平原にあります。

敷地は島根県の出雲地方で、ヤマタノオロチ伝説のある斐川平野です。この地域は宍道湖と斐伊川の間で、出雲屋敷という民家造りの家が建ち並びます。日本海が近く、卓越風として西風がとても強いので、家屋敷の西側には、築地松という風除けの林を立てる風習がある地域でもあります。

10年後の外観を見ると、家の両端に生えているクスノキの枝がすこし西に傾いて伸びているのは、その西風の影響です。

### ■玄関

玄関口には、納屋の軒下に20年程寝かせてあったケヤキ材を化粧柱として活用しました。このケヤキは、庭から切り倒して保管してあったもので、表面がくすんだ灰色になった野太い角材でした。それを試しに、カンナをかけて内部の木肌を出してもらったところ、茶褐色で木目のつまったケヤキの木部があらわれたので、とても驚いた記憶があります。

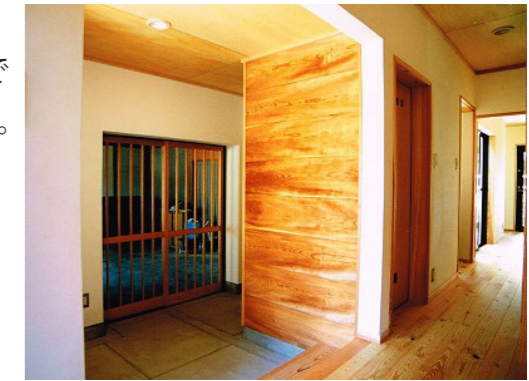
(右上に続く)



玄関正面

### ■玄関前廊下

内装仕上げ材には、松の板材を選びました。この松も庭にあった築地松です。床フローリング材や、壁材、吹抜けの天井仕上げにあつらえています。少しおおぶりの曲線を描く板目モヨウがとても印象的な材です。特に床材は10数年の時を経て、アメ色に変わって来ており、温かみを増した素材感になっていました。



玄関前廊下

### ■曇りがちな天候が多い場所で

ところを出雲地方は、『雲イヅル国』という名のとおりに、曇りがちな天候が多い場所です。年間を通じて、日照量が少ないので、家の中は昼間でも暗くなりがちです。

その対策として、建物の中央に、南面の大開口がある吹抜け階段室を設けました。この事で、家の中ができるだけ明るくなるように計画しています。

この吹抜け上部は、湿気が多い気候のため、外に干しても生乾きになりがちの衣類や、布団などが干せる場所として活用してもらっています。

また、吹抜けのガラス窓は、冬は干し柿を干したり、夜月や雪景色を眺めることもできる場所になっています。



南面の吹抜け大開口



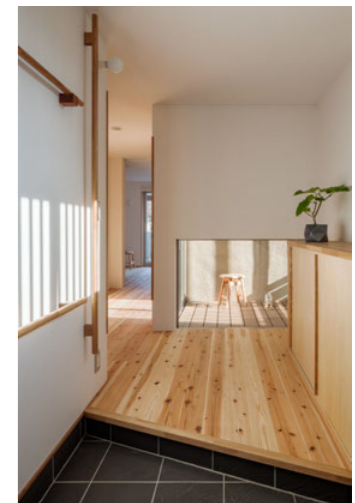
吹抜け階段室

### ■屋外スペースを取り込む

戸建て住宅の設計では、その家が建つ場所や地域性を読み解き、できるだけ季節感を取り込むように考えることを第一とします。

一方、街場の敷地であったとしても写真のような、建物に取り込む屋外スペースをつくることを提案します。そこから、自然光や風を効果的に取り込むように考えます。また、使用する木材や素材の良さを引き出し、末永く愛着をもって住んでもらえるように考えています。

現在の活動地域は、主に神奈川県と島根県ですが、それらの住宅でも、さいたまの西川材を個別に送ってもらい、仕上げ材に取り込んで設計していました。どうぞよろしくおねがいします。



玄関正面の坪庭  
(鶴沼橋の家)

## 建築展・見学会などのご案内

4月25日(月)～5月15日(土) 建築展「一般流通材で公共建築をつくる～所沢市立富岡保育園の事例から」

@木童ショールーム

5月14日(土)

完成見学会「熟年夫婦と母の家」 @埼玉県狭山市